

2013年度 第3四半期決算説明会

2014年1月29日

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO

取締役(兼)専務執行役員CFO

常務執行役員経営管理部長

大橋 徹二

藤塚 主夫

杉木 亮(説明者)

1. 2013年10-12月(3カ月間)の実績

2013年度 第3四半期(10-12月)の連結売上高と損益

- ・2013年度第3四半期は、鉱山機械需要低迷の影響を、好調な日本市場、ならびに回復に転じた中国市場における一般建設機械販売増等によりカバーし、売上高は前年同期比+10.6%増収の4,643億円。
- ・営業利益は前年同期比+44.5%増益の566億円、純利益は同+46.2%増益の365億円。

□:利益率 ():外部顧客向け売上高

金額単位:億円

	2012年 10-12月 1ドル=80.1円 1ユーロ=103.5円 1元=12.8円	2013年 10-12月 1ドル=99.7円 1ユーロ=135.1円 1元=16.3円	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	4,197	4,643	+446	+10.6%
- 建設機械・車両	(3,679) 3,684	(4,200) 4,207	(+520) +522	(+14.2%) +14.2%
- 産業機械他	(517) 534	(443) 453	(▲74) ▲81	(▲14.4%) ▲15.2%
- 消去	▲21	▲16	+5	-
セグメント利益	□9.5% 397	□11.8% 546	+148	+37.3%
- 建設機械・車両	□10.5% 388	□13.9% 583	+195	+50.3%
- 産業機械他	□1.0% 5	□▲8.1% *1 ▲36	▲42	-
- 消去または全社	4	▲0	▲4	-
その他の営業収益(▲費用)	▲5	20	+26	-
営業利益	□9.3% 392	□12.2% 566	+174	+44.5%
その他の収益(▲費用)	9	9	+0	-
税引前純利益	402	576	+174	+43.4%
純利益 *2	249	365	+115	+46.2%

*1 コマツNTCにおけるワイヤーソー在庫評価損▲76億円を含む

*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

■為替は、1ドル99.7円、1ユーロ135.1円、1元16.3円と、いずれも前年同期より大幅な円安となりました。

■コマツ連結の売上高は、前年同期比+10.6%、+446億円増の4643億円となりました。

■建設機械・車両部門では、鉱山機械需要低迷の影響を、好調な日本市場及び回復に転じた中国市場における一般建機の販売増等と、円安の効果によりカバーし、売上高は前年同期比+14.2%増収の4207億円となりました。

■同部門セグメント利益は前年同期比+50.3%増の583億円となり、セグメント利益率も13.9%と3.4ポイント改善しました。

■産業機械他部門では、売上高は▲15.2%減、453億円となりました。セグメント利益は、コマツNTCにおけるワイヤーソー部品在庫評価損▲76億円の影響があり、▲36億円の赤字となりました。尚、ワイヤーソーについては、更に第4Qにおいて約▲35億円の在庫にかかる損失計上を予想しています。

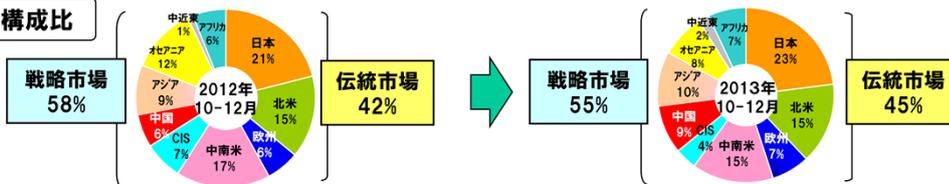
■連結の営業利益は前年同期比+44.5%増の566億円、売上高営業利益率は2.9ポイント改善の12.2%となりました。また、四半期純利益は同+46.2%増の365億円となりました。

<建設機械・車両> 2013年度第3四半期(10-12月)の地域別売上高(外部顧客向け)

・鉱山機械の需要は引き続き低迷したものの、好調な日本の売上が大幅に拡大。回復に転じた中国や、堅調な中近東・アフリカでも売上が増加し、全体で前年同期比+14.2%増収の4,200億円。

(金額単位:億円)		2012年 10-12月	2013年 10-12月	前年同期比	
伝統市場	日本	760	956	+195	+25.7%
	北米	560	652	+91	+16.3%
	欧州	228	280	+52	+22.9%
戦略市場	中南米	629	626	▲3	▲0.5%
	CIS	244	161	▲83	▲34.0%
	中国	204	395	+191	+93.3%
	アジア	347	433	+86	+24.8%
	オセアニア	435	321	▲114	▲26.3%
	中近東	44	90	+46	+104.2%
	アフリカ	222	281	+59	+26.5%
合計		3,679	4,200	+520	+14.2%
うち、鉱山機械		1,391	1,072	▲319	▲22.9%

地域別売上構成比



■建設機械・車両部門の売上高を地域別にみると、好調な日本が大きく売上を伸ばした他、回復に転じた中国や、中近東・アフリカ等でも前年同期比で増収となりました。中南米・CIS・オセアニアでは鉱山機械の需要減少の影響が大きく、前年同期比で減収となりました。

■全体では前年同期比+14.2%、520億円の増収ですが、為替換算差で約+540億の効果があり、物量ベースでは若干の減収でした。

■上記の結果、伝統市場の比率が42%から45%に増加しました。

■尚、全世界合計の鉱山機械売上高は、前年同期比▲22.9%減の1072億円となりました。

2. 2013年4月-12月 (9カ月間) の実績

2013年4-12月（9カ月間）の連結売上高と損益

・鉱山機械需要低迷の影響を、日本ならびに中国の一般建設機械の販売増等によりカバーし、売上高は前年同期比+2.9%増収の13,895億円、営業利益は同+10.1%増益の1,656億円、純利益は同+26.6%増益の1,153億円。

	%:利益率 ():外部顧客向け売上高		金額単位:億円	
	2012年4-12月 1ドル = 79.8円 1ユーロ = 102.1円 1元 = 12.7円	2013年4-12月 1ドル = 98.5円 1ユーロ = 130.5円 1元 = 16.1円	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	13,505	13,895	+389	+2.9%
- 建設機械・車両	(12,056) 12,076	(12,488) 12,507	(+432) +431	(+3.6%) +3.6%
- 産業機械他	(1,449) 1,506	(1,406) 1,449	(▲42) ▲57	(▲2.9%) ▲3.8%
- 消去	▲76	▲61	+14	-
セグメント利益	11.2% 1,510	11.8% 1,637	+126	+8.4%
- 建設機械・車両	12.3% 1,483	13.1% 1,641	+157	+10.6%
- 産業機械他	2.5% 38	0.8% *1 11	▲27	▲70.7%
- 消去または全社	▲11	▲15	▲4	-
その他の営業収益(▲費用)	▲5	19	+25	-
営業利益	11.1% 1,504	11.9% 1,656	+151	+10.1%
その他の収益(▲費用)	▲49	44	+94	-
税引前純利益	1,455	1,701	+245	+16.9%
純利益 *2	910	1,153	+242	+26.6%

*1 コマツNTCにおけるワイヤーソー在庫評価損▲76億円を含む

*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

■為替は、1ドル98.5円、1ユーロ130.5円、1元16.1円と、いずれも前年同期より大幅な円安となりました。

■コマツ連結の売上高は、前年同期比+2.9%、+389億円増の1兆3895億円となりました。

■建設機械・車両部門では、鉱山機械需要低迷の影響を、好調な日本市場及び回復に転じた中国市場における一般建機の販売増等と、円安の効果によりカバーし、売上高は前年同期比+3.6%増収の1兆2507億円となりました。

■同部門セグメント利益は前年同期比+10.6%増、1641億円となり、セグメント利益率も13.1%と0.8ポイント改善しました。

■産業機械他部門では、売上高は▲3.8%減、1449億円となりました。セグメント利益は、コマツNTCにおけるワイヤーソー部品在庫評価損▲76億円の影響があり、11億円にとどまりました。

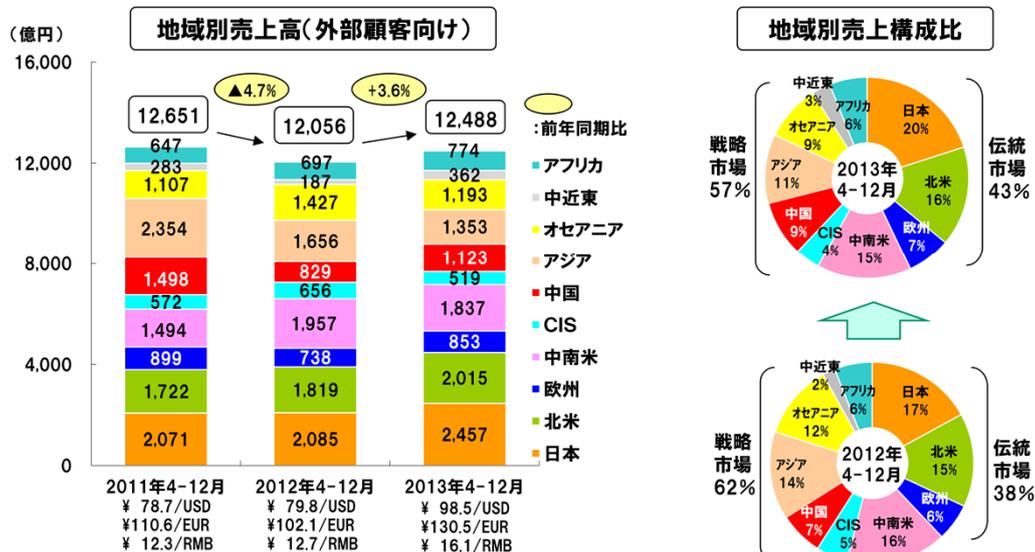
■連結の営業利益は前年同期比+10.1%増の1656億円、売上高営業利益率は0.8ポイント改善の11.9%となりました。

■税引前純利益は、前年同期比+16.9%、+245億円増の1701億円となりました。

■試験研究費に関する税額控除の増加等もあり、純利益は前年同期比+26.6%増の1153億円となりました。

<建設機械・車両> 2013年4-12月(9カ月間)の地域別売上高(外部顧客向け)

・鉱山機械の需要減に伴いオセアニア、アジア、中南米の構成比が減少した一方、好調な日本市場の売上増を受けて伝統市場の比率が増大。



売上高伸率(前年同期比)

%	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2012年4-12月	+0.7%	+5.7%	▲17.9%	+31.0%	+14.8%	▲44.6%	▲29.6%	+28.9%	▲33.9%	+7.8%	▲4.7%
2013年4-12月	+17.8%	+10.8%	+15.6%	▲6.1%	▲20.9%	+35.3%	▲18.3%	▲16.4%	+93.7%	+10.9%	+3.6%

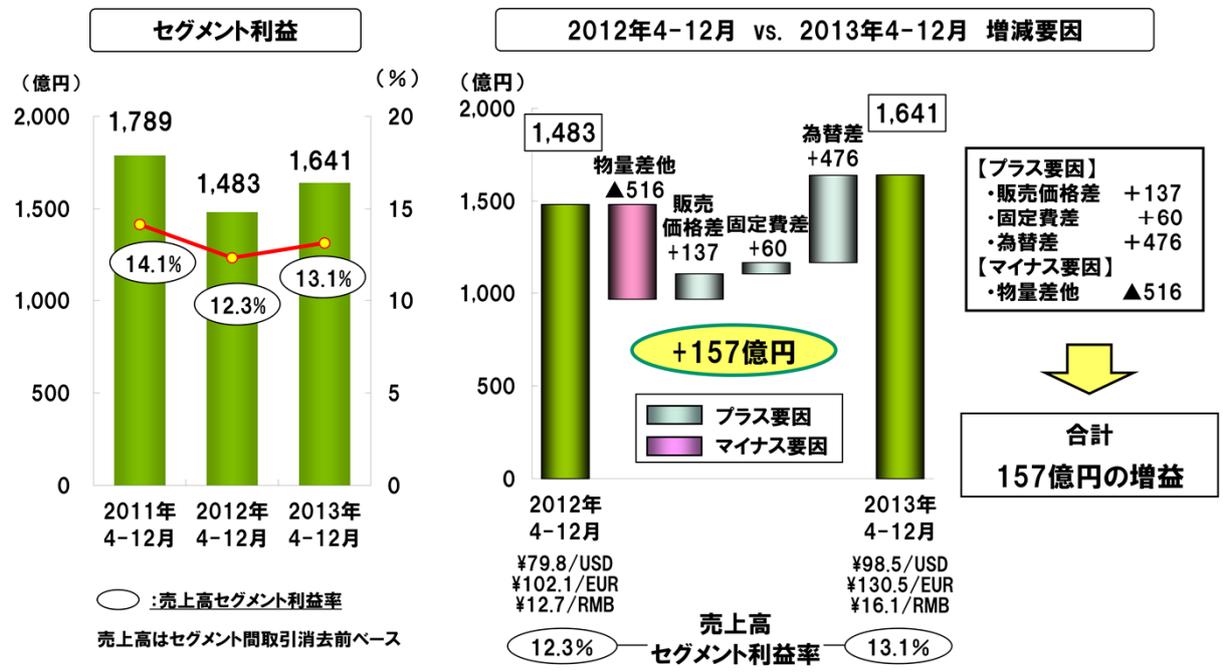
■建設機械・車両部門の売上高は、第3Qの3ヶ月間と同様、好調な日本が大きく売上を伸ばした他、回復に転じた中国や、中近東・アフリカ等でも前年同期比で増収となりました。中南米・CIS・オセアニアでは鉱山機械の需要減少の影響が大きく、前年同期比減収となりました。

■全体では対前年同期比+3.6%、+432億円の増収ですが、為替換算差で約+1610億円の効果があり、物量ベースでは減収でした。

■上記により、伝統市場の比率が38%から43%に増加しました。

<建設機械・車両> 2013年4-12月(9カ月間) セグメント利益・増減要因

・需要・販売の減による物量差他▲516億円を、販売価格差、固定費差、為替差でカバーし、ネットでは前年同期比+157億円の増益。
 ・売上高セグメント利益率は、+0.8ポイント増の13.1%。

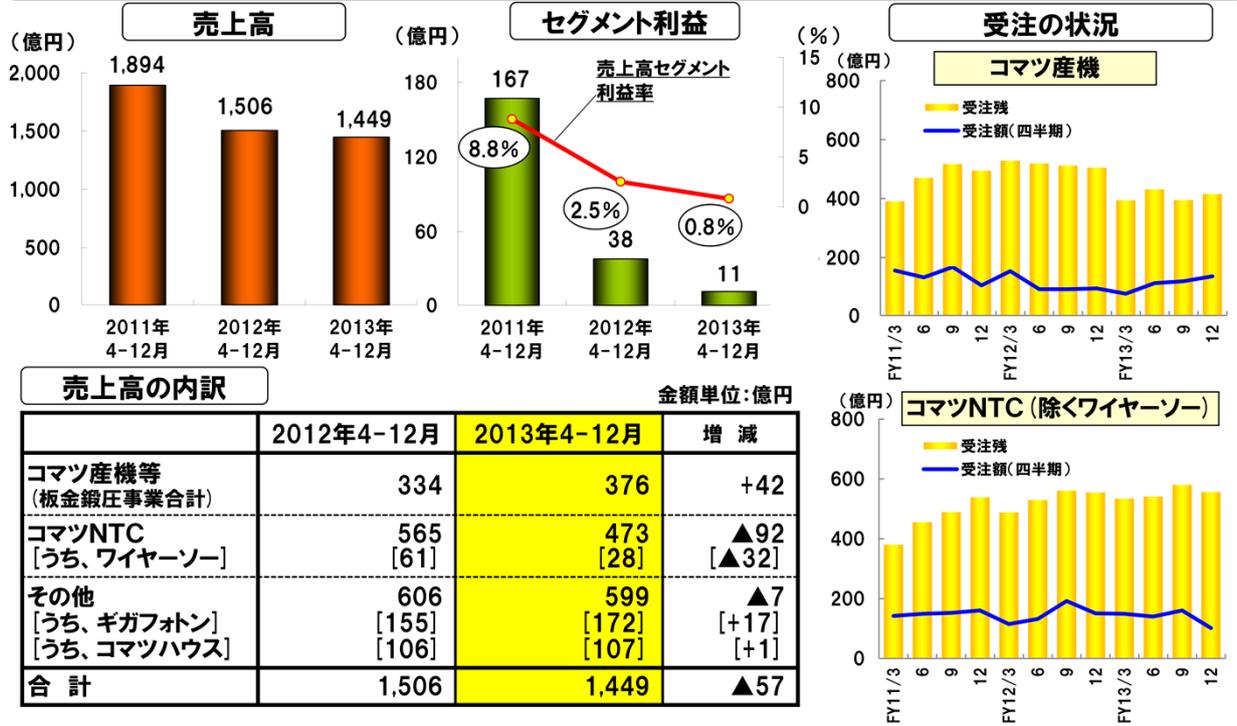


■需要・販売の減少による物量差他の▲516億円を、販売価格差+137億円、固定費差+60億円、為替差+476億円のプラスでカバーし、前年同期比+157億円の増益となりました。

■固定費差+60億円には、減価償却方法を定率法から定額法に変更したことによる影響を約+85億円含んでいます。

<産業機械他> 売上高、セグメント利益および受注の状況

- ・自動車業界向けを中心に工作機械や板金鍛圧機械の販売が底堅く推移したものの、売上高は前年同期比若干減収。
- ・当第3四半期、コマツNTCにおいてワイヤーソーの部品在庫評価損▲76億円を計上。
- ・受注残は安定的に推移。



■産業機械他セグメントでは、自動車業界向けを中心に工作機械および板金鍛圧機械の販売が底堅く推移したものの、ワイヤーソーの需要の低迷もあり、売上高は前年同期比で若干減収の1,449億円となりました。

■セグメント利益は、当第3四半期に、コマツNTCにおいてワイヤーソーの部品在庫評価損▲76億円を計上し、11億円の利益にとどまりました。

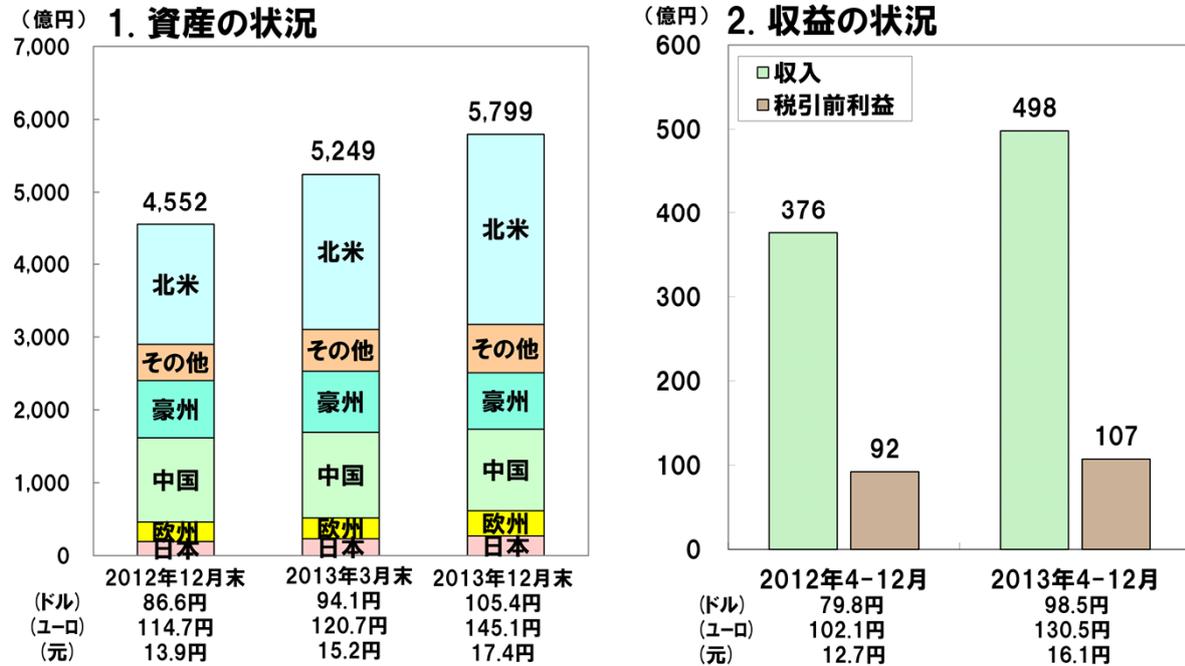
■3ページでも説明のとおり、ワイヤーソーについては、更に第4Qにおいて約▲35億円の在庫にかかる損失計上を予想しています。

■受注動向としては、自動車業界向けを中心に工作機械および板金鍛圧機械は堅調であり、受注残についても引き続き安定的に推移しています。

リテールファイナンスの状況

- ・資産は円安の影響に加え、北米等で新規取扱が増えたことにより、前年度末比で増加。
- ・収入・税引前利益は、前年同期比で増収増益。

リテールファイナンス子会社の状況



■リテールファイナンス子会社の総資産は、円安の影響および北米・中南米における新規取扱の増加等により、前年度末に比べ+550億円増加し、5799億円となりました。増加のうち、為替の影響は約+490億円あります。

■収益については、為替影響約+90億円を含め、収入は+122億円増加し498億円となりました。税引前利益は+15億円増益の107億円で、前年同期比で増収増益となりました。

連結貸借対照表

- ・総資産は、円安の影響等により前年度末比で+2,034億円増加。
- ・株主資本比率は49.8%、ネットD/Eレシオは0.44と、前年度末に比べ改善。

金額単位:億円 ○ : ネットD/Eレシオ	2013年3月末 1ドル=94.1円 1ユーロ=120.7円 1元=15.2円	2013年12月末 1ドル=105.4円 1ユーロ=145.1円 1元=17.4円	前期末比 増減
現金・預金(含む定期預金) [a]	938	1,110	+171
受取手形・売掛金(含む長期売上債権) <除くリテールファイナンス会社>	8,427 <4,143>	8,432 <3,932>	+5 <▲210>
棚卸資産	6,336	7,282	+945
有形固定資産	5,852	6,459	+607
その他資産	3,624	3,928	+304
資産合計	25,178	27,213	+2,034
支払手形・買掛金	2,262	2,348	+86
借入金・社債 [b] <除くリテールファイナンス会社>	6,797 <2,981>	7,046 <2,913>	+248 <▲67>
その他の負債	3,591	3,641	+50
負債合計	12,651	13,037	+385
(株主資本比率)	(47.4%)	(49.8%)	(+2.4ポイント)
株主資本	11,931	13,545	+1,613
非支配持分	595	630	+35
負債及び純資産合計	25,178	27,213	+2,034
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	○ 0.49 5,859	○ 0.44 5,936	+77
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	○ 0.20	○ 0.16	

■総資産は前年度末比で+2,034億円増加しましたが、為替の影響を除くと約355億円増加しました。

■受取手形・売掛金については、為替影響を除くと実質大幅に減っています。

■棚卸資産は前年度末と比較すると+945億の増加ですが、為替影響を除くと約350億円程度多くなっており、主な要因は、北米のレンタル向け車両およびセールスシーズンへの対応在庫等です。

■借入金・社債は、+248億円増加していますが、為替影響を除くと▲65億円の減少です。

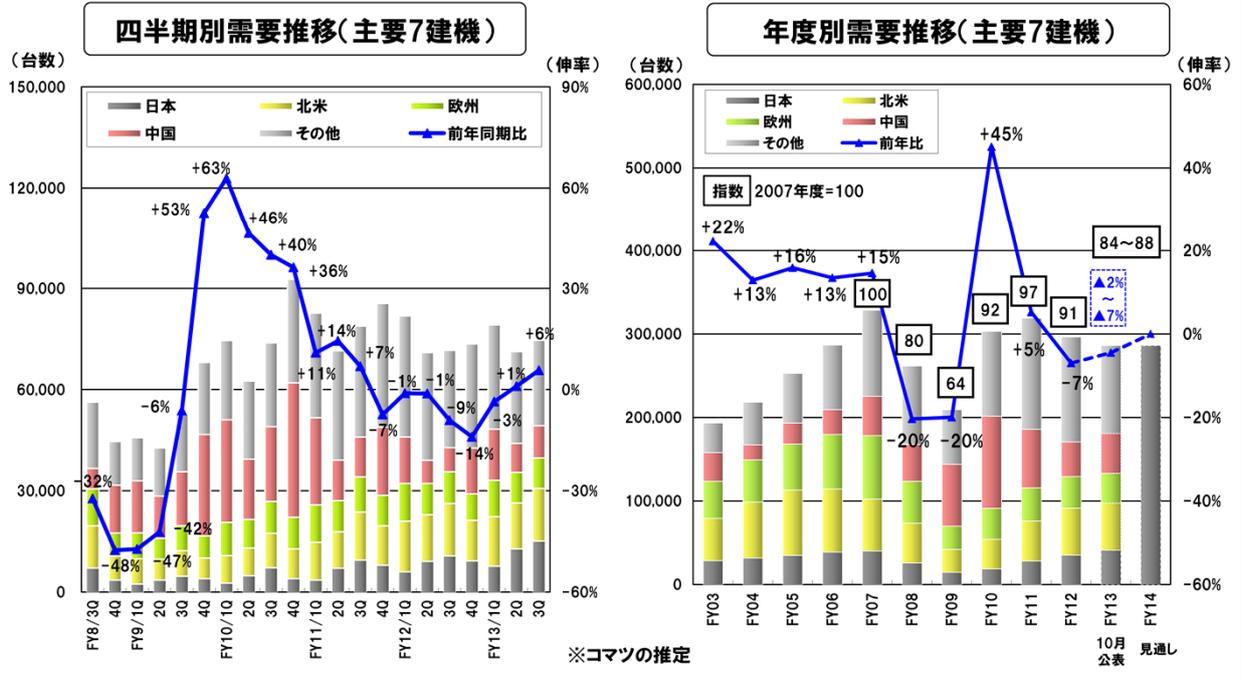
■借入金・社債の削減に努めるとともに、株主資本が増加したことにより、ネットD/Eレシオは全社で0.44ポイント、リテールファイナンス会社を除いて0.16ポイントと、いずれも前年度末に比べ改善しました。

■株主資本比率は+2.4ポイント増の49.8%となりました。

3. 地域・分野別 需要概況と今後の見通し

<建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し

・第3四半期の需要は、鉱山機械の需要が低迷したものの、堅調な日本や、市況が回復に転じた中国で需要が増加したことなどにより、全体で前年同四半期比+6%。
 ・2013年度通期の需要見通しは、10月公表値を据え置き、前年比▲2%～▲7%。
 ・2014年度通期の需要見通しは、本年度並みを見込む。



■第3四半期の建設・鉱山機械需要は、鉱山機械の需要が低調に推移しましたが、一般建設機械では日本および中国で需要が増加したことなどにより、全体で前年同四半期比+6%となりました。

■2013年度通期の需要見通しについては、10月公表の▲2%～▲7%の見通しを変更いたしません。上限レベルに近づく可能性が極めて高いと見えています。

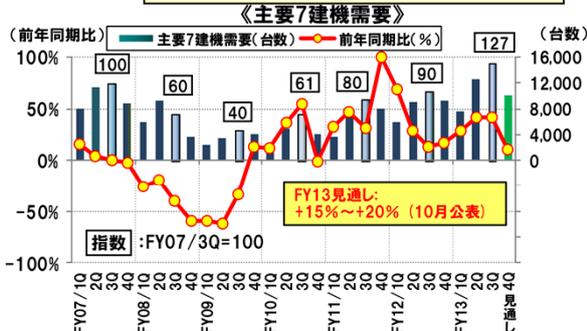
■2014年度の需要見通しについては現在作成中ですが、全体としては概ね本年度並みと見えています。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移①：日本・北米

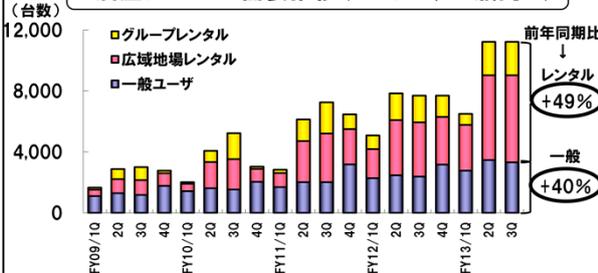
- ・日本：第3四半期の需要は、建設投資の増加や震災復興工事の本格化に加え、排出ガス規制の強化を見据えた購入が拡大し前年同期比+41%と伸長。
- ・北米：第3四半期の需要は、レンタル向けが低調に推移したものの住宅建設やエネルギー分野向け等は伸長し、前年同期並み。

日本

2Q (7-9月)：前年同期比+41%
3Q (10-12月)：前年同期比+41%

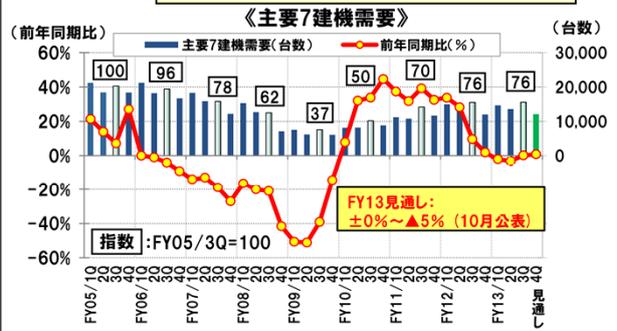


油圧ショベル 需要推移 (レンタル/一般向け)

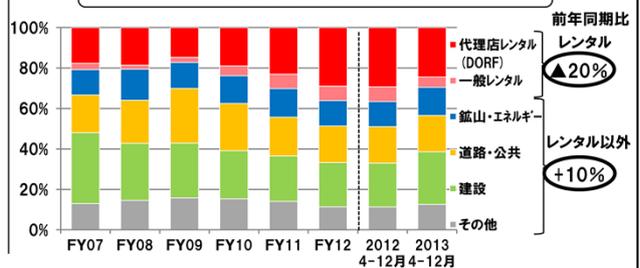


北米

2Q (7-9月)：前年同期比▲2%
3Q (10-12月)：前年同期比±0%



セグメント別需要構成比 (台数ベース)



■日本：

- ・建設投資の増加や震災復興工事の本格化に加え、排出ガス規制の強化を見据えた購入が拡大しました。
- ・第3四半期の需要は前年同期比+41%と伸長しました。2013年度通期需要は、10月公表時に前年比+15~+20%の見通しと致しましたが、このレンジを上回る可能性があると考えております。

■北米：

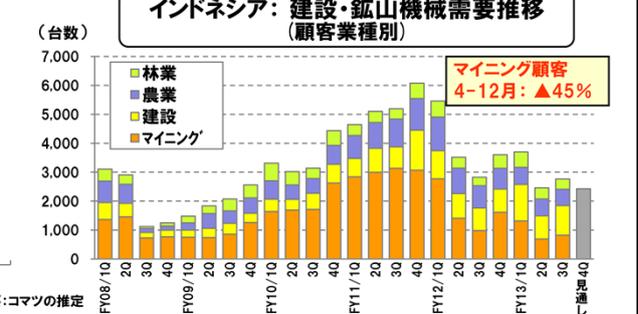
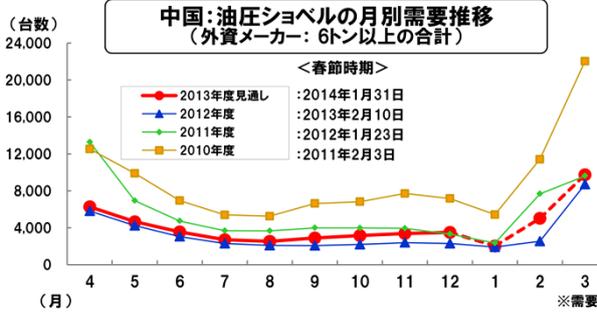
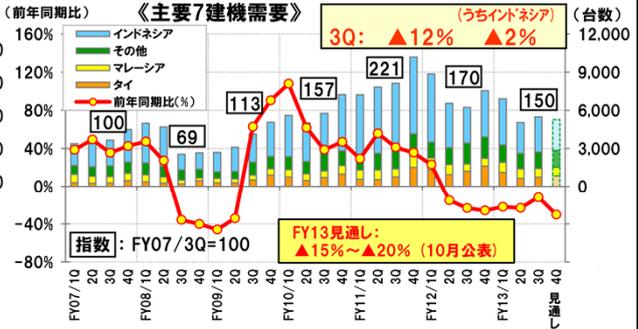
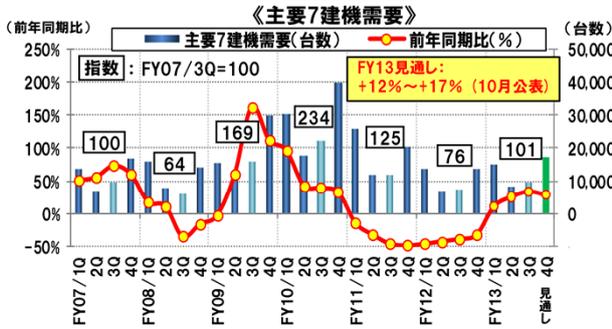
- ・第3四半期の需要は、レンタル向けが低調に推移したものの住宅建設やエネルギー分野向け等の需要が伸長したことにより、前年同期レベルとなりました。
- ・2013年度通期需要は、10月公表どおり、前年比±0~▲5%の見通しです。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移②：中国・東南アジア

- ・中国：需要（外資メーカー合計）は2013年第1四半期以降回復に転じ、前年同期比プラスが継続。
- ・東南アジア：第3四半期の需要は前年同比▲12%減。

中国 2Q(7-9月)：前年同期比+25%
3Q(10-12月)：前年同期比+33%

東南アジア 2Q(7-9月)：前年同期比▲24%
3Q(10-12月)：前年同期比▲12%



■中国：

- ・需要（外資メーカー合計）は2013年第1四半期以降回復に転じ、前年同期比プラスが継続しています。
- ・2013年度の年間需要見通しについては、特に春節明けの需要が例年急上昇する2～3月の動向によりますが、10月公表時の+12%～+17%のレンジを上回るものと見ています。

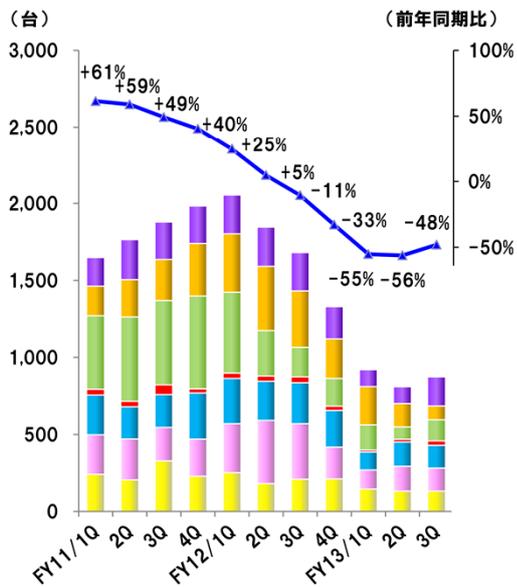
■東南アジア：

- ・第3四半期の需要は前年同期比▲12%減となりました。
- ・インドネシアの第3四半期の需要は▲2%とマイナス幅は減少しました。
- ・2013年度通期の需要見通しについては、10月公表時に▲15%～▲20%と見ましたが、▲20%レベルになると考えています。

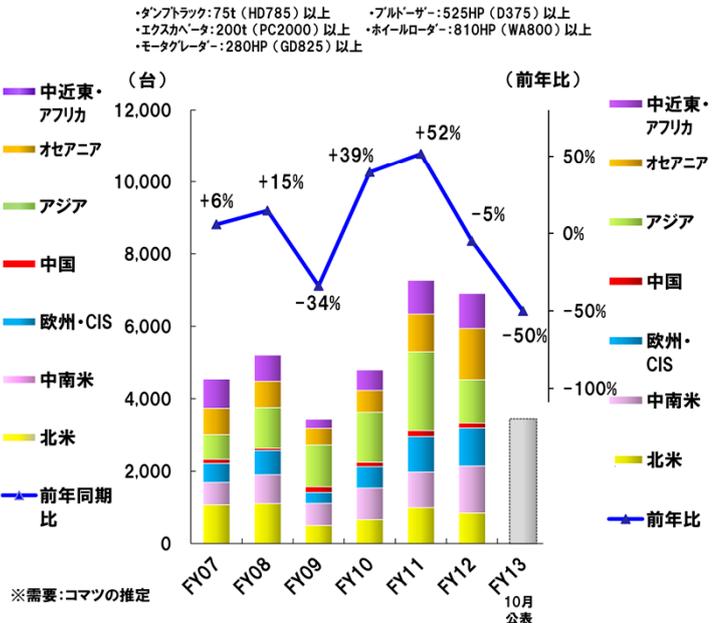
<建設・鉱山機械> 鉱山機械の需要推移と見通し

・資源価格の低迷によりユーザの設備投資マインドが冷え込んでおり、2012年度第3四半期から前年比マイナスが継続。
 ・2013年度の通期需要は、10月公表値どおり前年比▲50%の見通し。

鉱山機械 四半期別需要推移



鉱山機械 年度別需要推移



■鉱山機械の世界需要は、資源価格の低迷によりユーザの設備投資マインドが冷え込んでいることから、2012年度第3Qから前年同期比マイナスが継続しています。

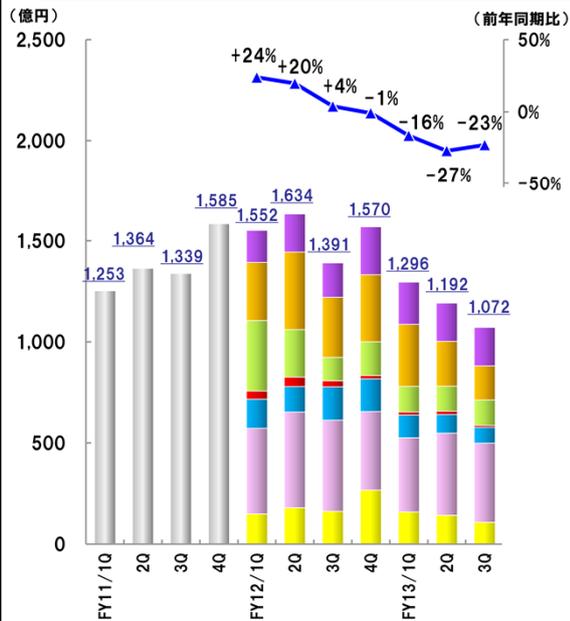
■2013年通期の需要見通しについては、10月公表値どおり前年比▲50%減と見えています。

■鉱物資源の生産量は依然として増加傾向にあり、鉱山での機械の稼働状況も前年並みで推移しております。

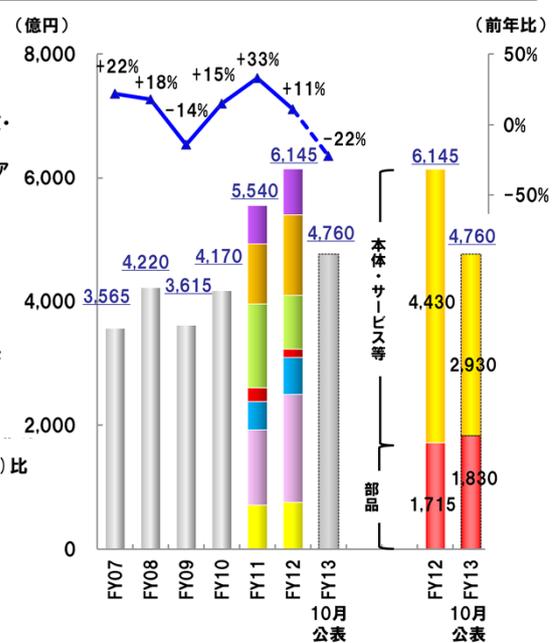
<建設・鉱山機械> 鉱山機械の売上高

・需要の低迷により、鉱山機械の売上高は四半期で前年同期比マイナスが継続。
 ・部品・サービスを含めた2013年度通期売上見通しは、前年比▲22%。

鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス含む)



鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス含む)



■鉱山機械本体の需要の低迷により、鉱山機械の四半期売上高は、2012年第4四半期以降、前年同期比マイナスが継続しています。

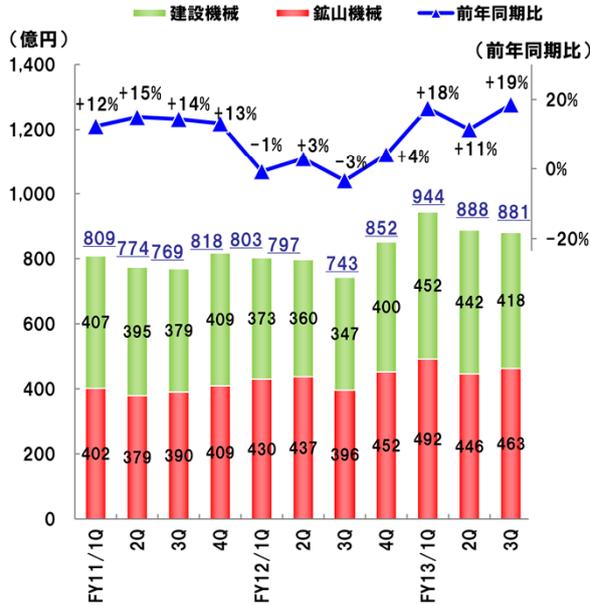
■比較的堅調な部品売上もあることから、2013年度通期では前年比▲22%の見通しです。

■鉱山機械全体の年間売上見通しについては、10月の公表値から変更ありません。

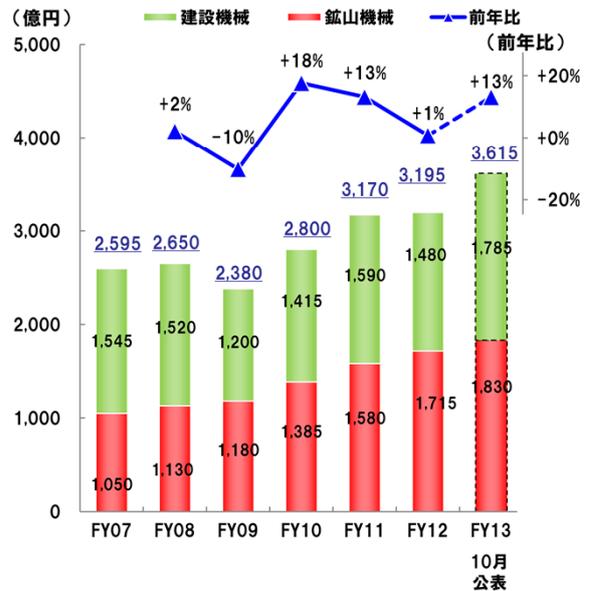
<建設・鉱山機械> 部品の売上高

・第3四半期の部品売上高は、前年同期比+19%。
 ・2013年度の売上は、10月公表値どおり前年比+13%の見通し。

四半期別 部品売上高推移



部品売上高



■第3四半期の部品売上高は、前年同期比+19%の881億円となりました。

■2013年度の売上は、10月公表どおり前年比+13%増の見通しです。



世界初*の全自動ブレード制御機能を搭載した中型ICTブルドーザー「D61PXi-23」

*当社調べ。市販ベースの主要7機種（クローラー式油圧ショベル、ホイール式油圧ショベル、ホイールローダー、ブルドーザー、モーターグレーダー、リジッド式ダンプトラック、アーティキュレート式ダンプトラック）において。

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>